

なるほど! ザ・ファンド



Vol.231

Q.

バリュー株とグロース株の違いは？

A.

「本来の企業価値」よりも株価が低い状態（割安）にある株を『バリュー株』、業績や利益の成長率が高く、今後も高い成長が見込まれる銘柄を『グロース株』といい、一般的にこれら是对極の関係にあります。

- ◆『バリュー株』は割安株とも呼ばれ、企業が生み出す利益や保有資産などから算出される企業価値と比較して、株価が低い状態（割安）にある銘柄を指します。一般的に『バリュー株』かどうかを判断する際にはPBR（株価純資産倍率）とPER（株価収益率）を使用します。競合他社や自社の過去平均等との比較で高いと割高、低いと割安と考えることがあります。なおPBR1倍未満は、一般的に企業の清算価値を下回った株価水準を意味します。
- ◆『グロース株』は成長株とも呼ばれます。成長性や将来性に対する評価が高いことから、PERやPBRは市場平均よりも高い傾向にあります。

バリュー株の代表例

『バリュー株』には、すでに成熟した業種の企業や、業績が安定していて利益も着実に出しているものの、知名度や話題性の低い企業が多く該当し、銀行業や製造業等が多い傾向があります。

<MSCI Worldバリュー指数の構成比率上位5銘柄>

銘柄名	業種	実績 PBR (倍)	今期予想 PER (倍)
バークシャー・ハサウェイ	金融	1.7	25.2
JPMorgan・チェース・アンド・カンパニー	金融	1.9	12.8
エクソンモービル	エネルギー	1.8	15.8
ユナイテッドヘルス・グループ	ヘルスケア	4.1	15.2
プロクター・アンド・ギャンブル	生活必需品	7.9	24.3

グロース株の代表例

『グロース株』には、業績が急拡大している企業や革新的なサービス・商品を提供している企業が多く該当し、ITやテクノロジー関連企業等が多い傾向があります。

<MSCI Worldグロース指数の構成比率上位5銘柄>

銘柄名	業種	実績 PBR (倍)	今期予想 PER (倍)
アップル	情報技術	44.4	26.9
マイクロソフト	情報技術	9.0	26.5
エヌビディア	情報技術	31.3	23.0
アマゾン・ドット・コム	一般消費財・サービス	6.4	24.2
メタ・プラットフォームズ	コミュニケーション・サービス	7.0	19.3

(注) データは2025年4月17日現在。業種はGICS（世界産業分類基準）のセクター分類。
(出所) FactSet、Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

※この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

バリュー株とグロース株は、景気・金利のサイクルの中で異なる動きをする傾向

＜バリュー株とグロース株の相対株価の推移＞

1974年12月末～2025年3月末、月次



- ① 1975年以降、景気や企業業績の拡大、GAFAM*の世界的台頭前であったこと等を背景に、『バリュー株』優位の期間が30年以上続きました。
- ② 一方で、2007年以降は世界経済の低成長、低金利等を背景に、『グロース株』優位の期間が続いていました。
- ③ 2021年末頃からは、コロナショックからの経済活動正常化や長期金利の上昇等を受けて、『バリュー株』の相対株価に反転の動きがみられました。
- ④ 2023年以降、米国や欧州での利下げや堅調な企業業績、米トランプ大統領の再選などにより株式市場が堅調に推移する中、大型ハイテク株を中心に『グロース株』が優位となる展開がみられています。

*グロース株の代表格であるGoogle (Alphabet)、Apple、Facebook (Meta Platforms)、Amazon、Microsoftの頭文字を取った呼称。

(注1) バリュー株はMSCI Worldバリュー株指数、グロース株はMSCI Worldグロース株指数、いずれも配当込み、米ドルベース。長期トレンドを示すため、データ取得可能期間の推移を表示。1974年12月末を100として指数化した各指数を使用。

(注2) ③の期間は、2020年8月末～2022年12月末。④の期間は、2022年12月末～2025年3月末。

(出所) Bloombergのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成



金利上昇局面で『グロース株』が下落するのはなぜ？

金利上昇局面では、一般的に負債比率やリスク許容度等の観点から『グロース株』が下落しやすくなります。また、株式益利回りの観点では、『グロース株』は一般的にPERが高く、PERの逆数である株式益利回りが低い傾向にあります。金利上昇局面では、PERが高い株は金利と比較した益利回りの低さから相対的な投資魅力が低下し、売られやすくなる傾向があります。

例) **A株**：株価100円、**PER10倍** ⇒ **益利回り10%**

B株：株価100円、**PER50倍** ⇒ **益利回り2%**

⇒PERの高い**B株**は、益利回りが低いため、金利が上昇すると投資魅力が低下し売られやすい

◇...◇ 補足 ◇...◇

予想PER (株価収益率)

特定時点の株価を予想EPS（1株当たり利益）で除した倍率です。一般的に、利益からみた株価の割高、割安を判断するために用いられます。PERが、競合他社や自社の過去平均等との比較で高いと割高、低いと割安と考えることがあります。なお、予想利益の成長率が高いほど、予想PERは高くなる場合があります。

PBR (株価純資産倍率)

特定時点の株価を決算期末BPS（1株当たり純資産）で除した倍率です。一般的に、純資産からみた株価の割高、割安を判断するために用いられます。PBRが、競合他社や自社の過去平均等との比較で高いと割高、低いと割安と考えることがあります。なお、PBR1倍未満は、一般的に企業の清算価値を下回った株価水準を意味します。

株式益利回り

株価の割安性を表す指標で、株価（＝投資元本）に対して、1株当たり利益（＝投資リターン）がどれだけかを表しています。PERの逆数（1/PER）となり、通常、PERが低いほど株価が割安とされるのに対し、株式益利回りは高いほど株価が割安と判断されます。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

※この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

【重要な注意事項】

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。

＜ご留意いただきたい点＞

■この資料は具体的な商品をご説明するものではないため詳細を記載しておりませんが、元本保証のないリスク性商品のご購入やご売却、保有にあたっては、手数料等をご負担いただきます。■リスク性商品には、各種相場環境等の変動により、投資した資産の価値が投資元本を割り込む等のリスクがあります。■リスク性商品を中途解約する場合は、ご購入時の条件が適用されず不利益となる場合があります。■くわしくは、三井住友銀行店頭の商品の説明書等を必ずご覧ください。



三井住友銀行

株式会社三井住友銀行
登録金融機関 関東財務局長（登金）第54号
加入協会 / 日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、
一般社団法人第二種金融商品取引業協会